

間

静かな時の流れの中で耳を傾けてごらん
風の声や小鳥のさえずり
こういった情景の中で物思いにふける
私の感情は時に激しく
時にやさしく揺れ動く
人生は前進するためにたまに過去を振り返る
形としてとらえ難いが思い出として眺める
がむしゃらだったあの頃の生活に
“間”というものが欠けていることに気がつく
過去に私の前から去っていった画家
ある時、彼の作品がなにを表しているのか見えてこなかった
そして、やっと闇から浮かび出てきたものは
洞窟に置かれた“泣き叫んでいる埴輪”の姿だった
彼は数年前脊椎に菌が入り
車いす生活に強いられてしまった
そのことが、このような絵の表現となったのだろうか
生活の中の激情、そんな激しさは今の私の中にはない
哀愁ただよう空間の中で
身をゆだね、癒しを求めて
“感動”が心の支えとなり
時の流れに逆らわず、どっぷりつかって
周りの風景の中に溶け込む